

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 火 1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間の科学(神経科学入門：脳の中の心を探る) Human Sciences (Mining mind in the Brain : An Introduction to the Neuroscience)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	担当教員:森 望/Eメールアドレス:morinosm@net.nagasaki-u.ac.jp/研究室:解剖学第一教室/TEL:819-7019(医学部内線 7019) /オフィスアワー:火曜日 16:00~18:00 教員研究室(医学部基礎棟 3F 343 号室)		
担当教員(オムニバス科目等)	森 望 ・ 小澤 寛樹 ・ 永田 泉		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標(500文字)			
<p>授業のねらい:壮大な宇宙史あるいはヒトの進化史の中で、ヒトの「脳」は究極の進化産物である。生体としての自己を維持する管制塔であるとともに、恋人や家族やまた他人を認知し、優しくもなり凶暴にもなる「心」を宿す特殊な生物器官である。「物質」の集合体としての「脳」は如何に「心」をはぐくむのか? 「心」はどのように発達してどう進化するのか? 「脳」のどこに「心」は住むのだろうか? いわゆる記憶学習のような高次脳機能に加えて、情動や感性を含めた「精神」の発達がヒトを人たらしめる。「精神」や「こころ」は、優しくもあり、崇高でもあり、そして時に病むこともあり、老いとともに崩れることもある。本講義では、現代神経生物学の基礎を学習しつつ、物質から心がどのように生まれるのかを多面的にとらえ、「脳」と「こころ」の発達と進化について理解することをめざす。</p> <p>授業方法: 第一解剖の森を中心に、精神科の小澤教授、脳外科の永田教授を含めて講義形式で進める。適時レポートを課す。</p> <p>授業到達目標: 現代神経科学の基礎を理解しつつ「こころ」の実態について考える</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)(1300文字)			
<p>授業内容(概要)</p> <p>物質から「こころ」の派生を、進化論、ゲノム科学、脳形態学、神経生物学、霊長類学、心理学、精神医学、脳外科学等の成果から多角的に考察し、「こころ」の成立とそのメカニズム、成熟、病態、終焉、そして進化を総合的に理解する。大まかな内容は下記のとおり。</p> <p>第1回 物質から心へ：地球の進化と高次生命体の進化  第2回 生体を構成する物質：物質の集合がつくる脳と心  第3回 脳を構成する遺伝子：ゲノムにみるヒトへの足跡  第4回 一寸の虫にも五分の魂：虫の脳、ヒトの脳の発達、進化と多様性  第5回 神経ネットワークとシナプス：脳の形態と機能分化と情報伝達  第6回 自己を維持する管制塔：脳の植物機能（自己を律すること）  第7回 外界と交わる管制塔：脳の動物機能（感覚と情報処理）  第8回 心の神経解剖：感情と心のすみかを求めて（自己を知り他人を知る脳）  第9回 裸のサル、言葉をしゃべるサル：言語の獲得による思考と感情の発達  第10回 心の原理を探る：認知と意識の問題  第11回 正気と狂気：正常と異常のはざままで  第12回 ライフヒストリー：老化脳における心の円熟と退化  第13回 生と死を見つめて：脳死と心の終焉  第14回 心の遺伝と進化：心はどのように伝わり進化するか？  第15回 総括</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<p>参考図書：</p> <p>養老孟司：唯脳論（ちくま学芸文庫） 時実利彦：人間であること（岩波新書）（1970）  茂木健一郎：こころを生み出す脳のシステム：「私」というミステリー（NHKブックス）（2001）  日経サイエンス別冊：脳と心のミステリー（2002） 意識と脳（2001）  日経サイエンス別冊：脳から見た心の世界（2005） 同2（2006）同3（2007）</p>		
成績評価の方法・基準等	授業への参加状況（40%）とレポート（60%）の結果を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			